

2016年3月期 第2四半期 決算説明会



電気の居場所
をつくる仕事

2015年11月5日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

1.	業績の概要	P.3
2.	売上高・利益	P.4
3.	セグメント別業績	P.6
4.	連結業績予想の修正	P.16
5.	貸借対照表	P.19
6.	設備投資・減価償却費・研究開発費	P.20
7.	キャッシュ・フロー計算書	P.21
8.	パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収	P.22

1. 業績の概要

経営環境

国内経済は、2014年4月の消費増税後の反動減の影響は一巡したものの、夏場の天候不順や2015年4月の軽自動車税増税の影響などにより個人消費が低迷し、景気は足踏みの状態で推移した。

世界経済は、中国では景気の減速感が強まるなか、株価が急落するなど景気は下振れしたまま推移、東南アジア各国でも成長ペースが鈍化した。一方、米国の景気は回復基調で推移し、欧州でも緩やかな回復基調で推移した。

業績の概要

売上高は、海外では連結範囲の拡大や円安による影響で増加したものの、国内では携帯電話の基地局向け電源装置、太陽光発電用電源装置および車載用リチウムイオン電池の販売が減少したことなどにより、前年同期比で減少した。

営業利益は、国内販売の減少に伴い減少した。経常利益は、為替差損の発生や、持分法による投資利益減により減少した。その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益が減少した。

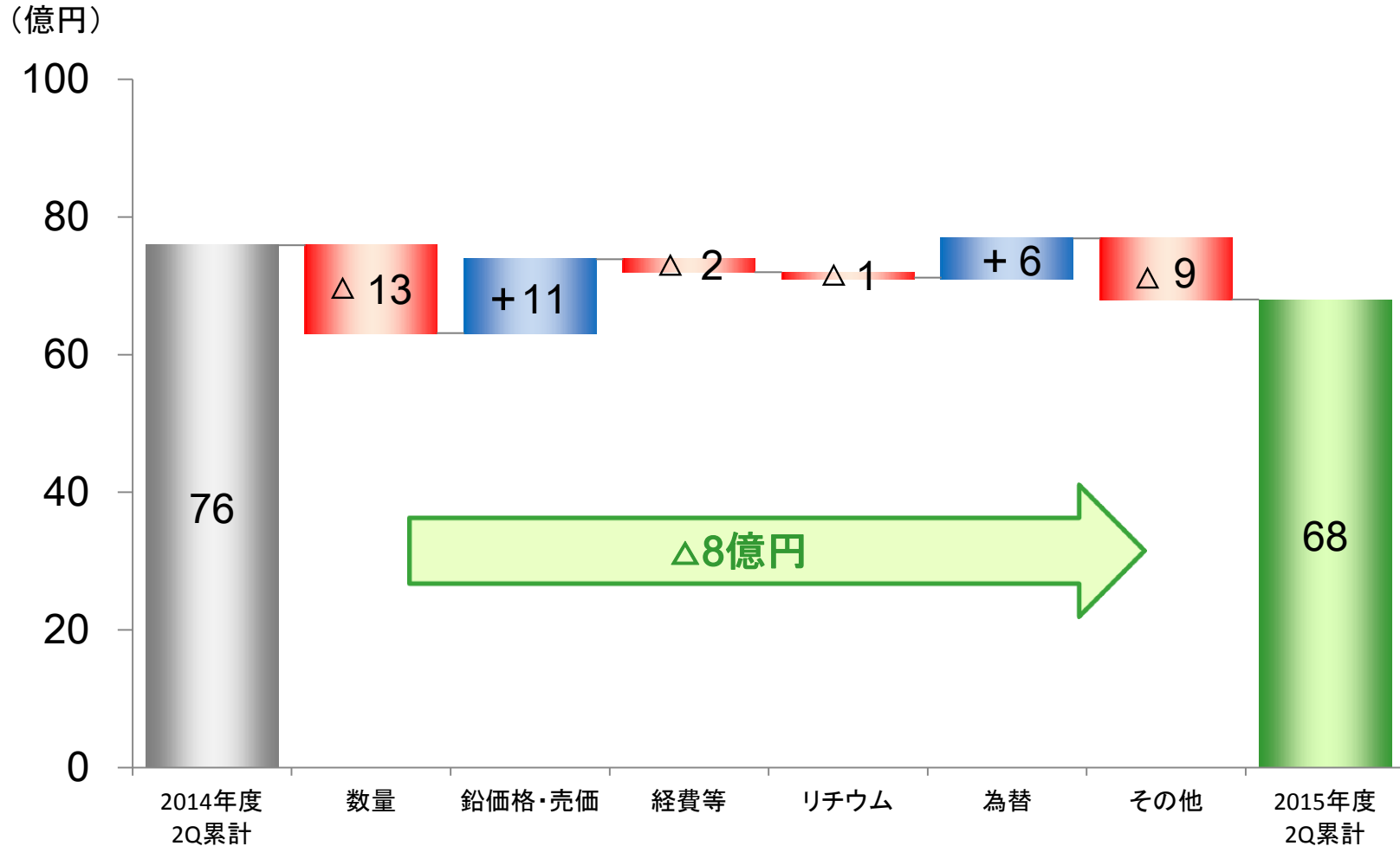
2. 売上高・利益

(億円)

	2014年度 2Q累計	2015年度 2Q累計	増減 (前期比)
売上高	1,715	1,711	-4 (-0.2%)
営業利益 (営業利益率)	76 4.4%	68 4.0%	-8 (-10.4%) -0.4P
経常利益	88	70	-18 (-19.9%)
特別利益	1	0	-1
特別損失	4	6	+2
税前三半期純利益	85	65	-20
法人税等	29	25	-4
非支配会社に帰属する 四半期純利益	4	4	-0
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (四半期純利益率)	52 3.0%	36 2.1%	-16 (-30.4%) -0.9P
中間配当	3円/株	3円/株	±0円/株

2. 売上高・利益

営業利益増減要因



3. セグメント別業績

連結業績(第2四半期累計)

(億円)

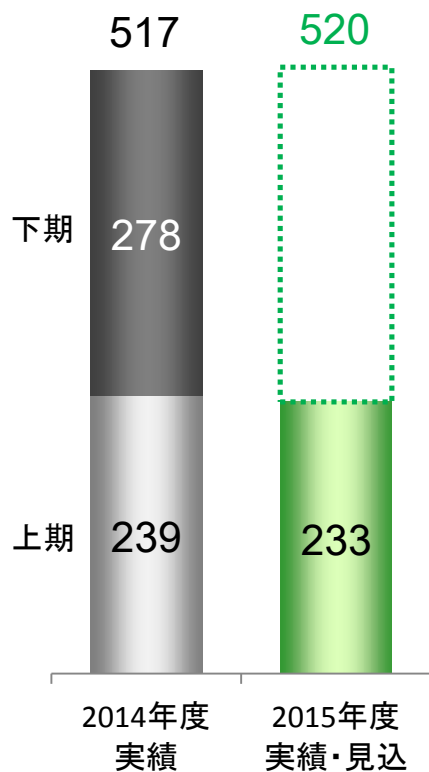
	2014年度 2Q累計		2015年度 2Q累計		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率%)
国内自動車電池	239	5 (2.2)	233	8 (3.5)	-6	+3 (+1.3)
国内産業電池電源	340	18 (5.2)	304	7 (2.1)	-35	-11 (-3.1)
海外	853	52 (6.1)	946	62 (6.6)	+93	+10 (+0.5)
リチウムイオン電池	244	-11 (-4.6)	178	-12 (-6.5)	-66	-1 (-1.9)
その他	39	12 (31.4)	50	3 (5.5)	+10	-10 (-25.9)
合計	1,715	76 (4.4)	1,711	68 (4.0)	-4	-8 (-0.4)

3. セグメント別業績

国内自動車電池

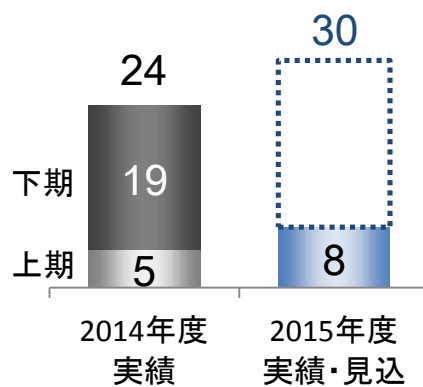
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2015年度上期商況

- 新車メーカーの自動車生産台数が低迷し、新車向け販売は減少
- 昨年度実施した補修用電池の価格改定により収益改善
- 自動車関連部品(カーナビ等)の販売は減少

増減益要因

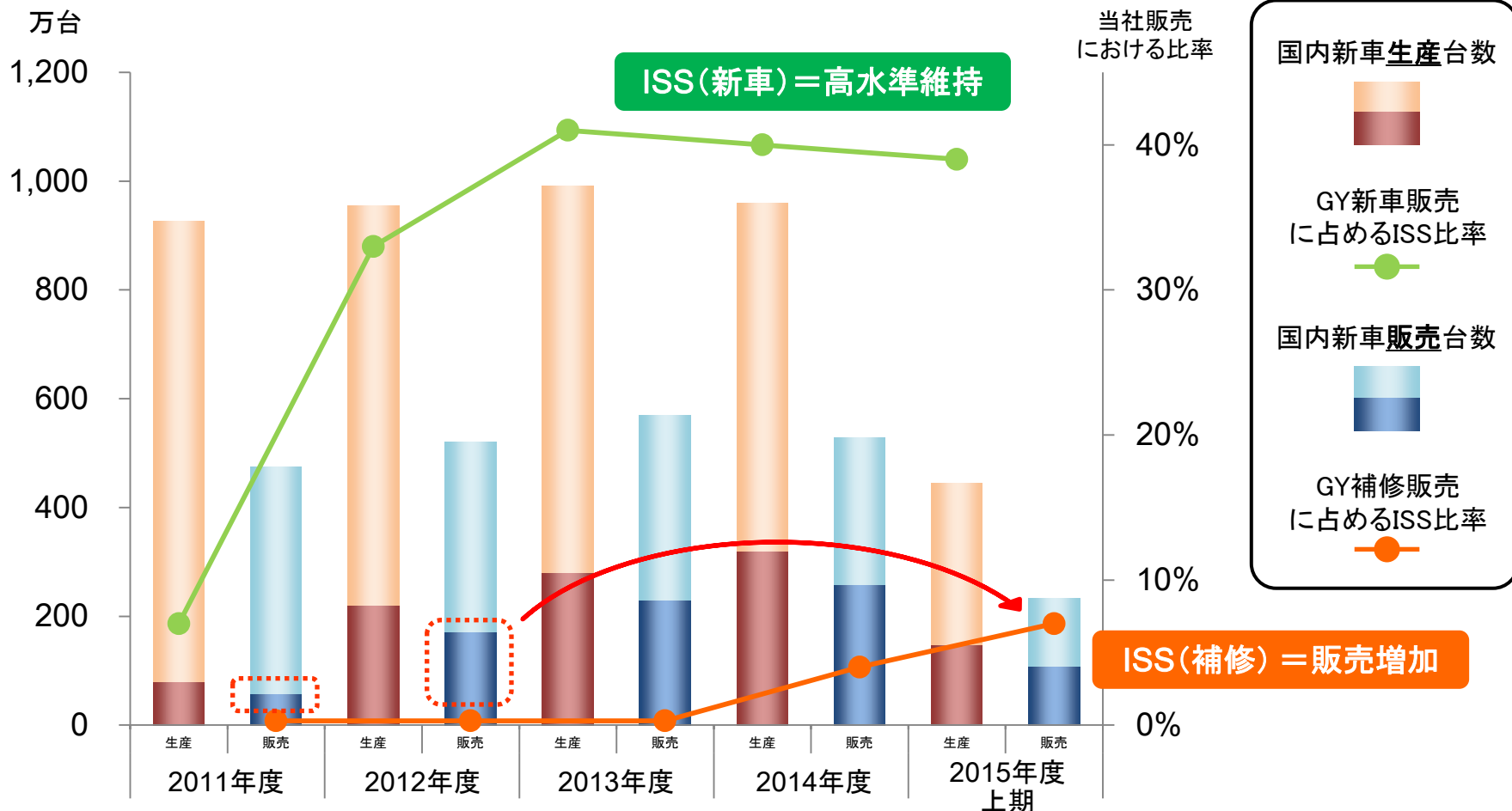
(億円)

数量	-4
鉛価格・売価	+5
合理化等	+2

3. セグメント別業績

国内自動車電池

➤ アイドリングストップ (ISS) 車の補修販売が2014年度から本格化

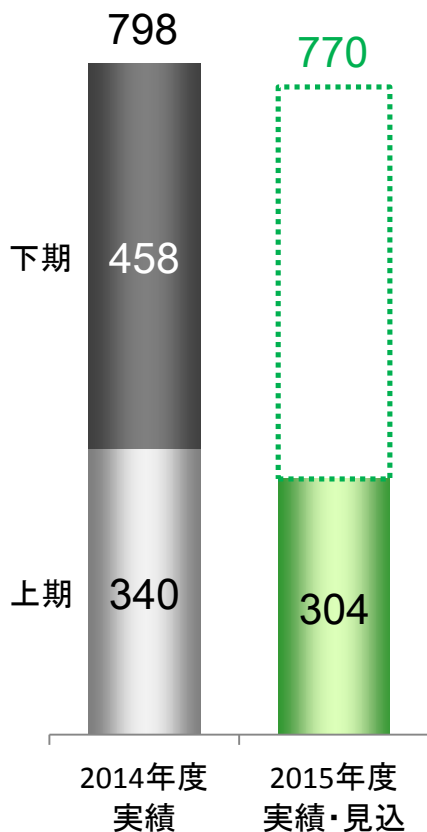


3. セグメント別業績

国内産業電池電源

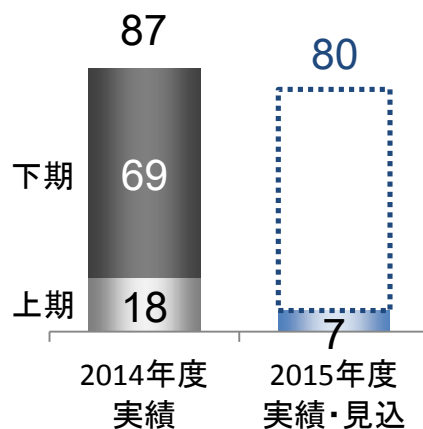
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2015年度上期商況

- 携帯電話の基地局向け電源装置の販売は減少
- 太陽光発電設備用パワーコンディショナの販売は減少
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売は好調維持

増減益要因

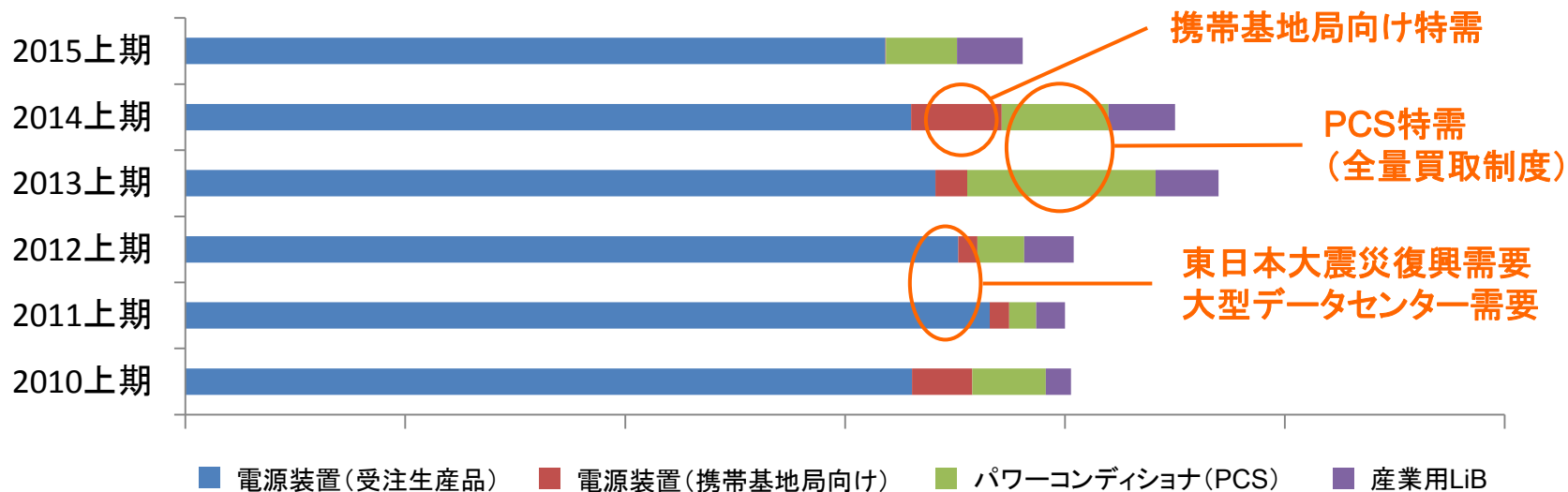
(億円)

数量	-9
鉛価格・売価	+1
経費等	-3

3. セグメント別業績

国内産業電池電源

➤ 携帯基地局向けとPCSの減少を、受注生産品と産業用LiBでカバーできず



《収益拡大に向けた今後の取り組み》

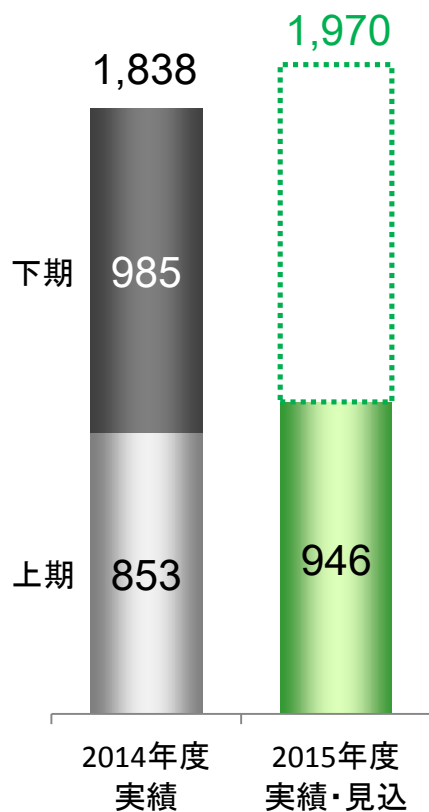
- 年度末に向けて短納期の取替案件(予算消化案件)への対応強化
- グリーンニューディール事業の期限到来に伴う需要への対応強化
- 経費削減により収益確保

3. セグメント別業績

海外

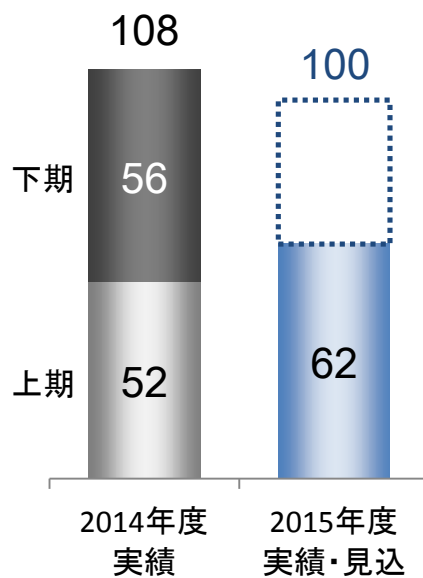
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2015年度上期商況

- インドネシアのグループ会社を前第3四半期より連結子会社化
- 中国、タイ、インドネシアで販売減少
- 為替影響により増収

増減益要因

(億円)

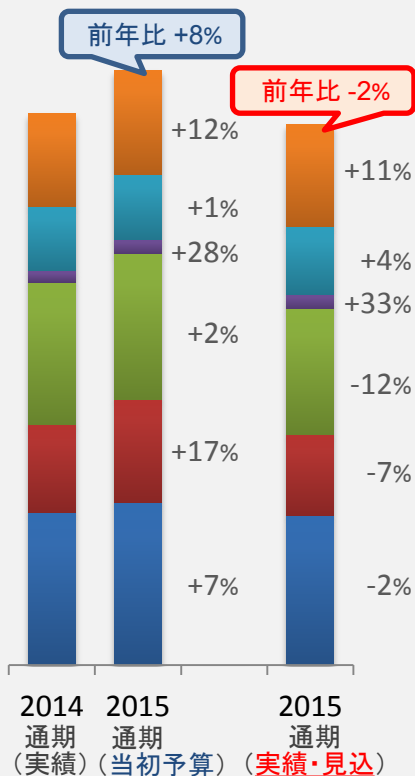
数量	-1
鉛価格・売価	+6
為替	+6
人件費・費用等	-1

3. セグメント別業績

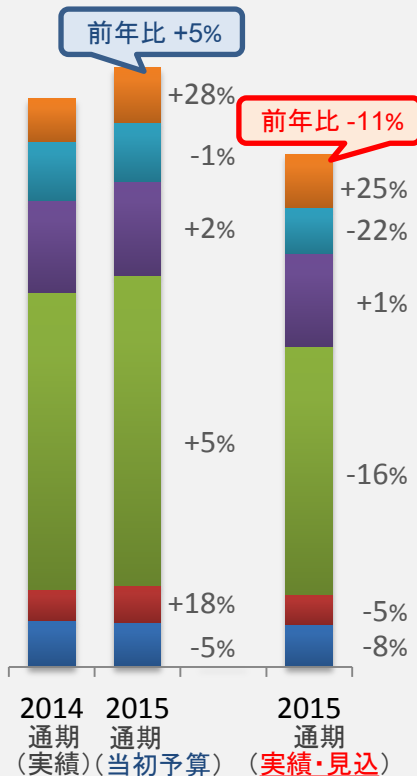
海外

アジア主要国の出荷量推移 (持分法含む)

自動車用鉛蓄電池



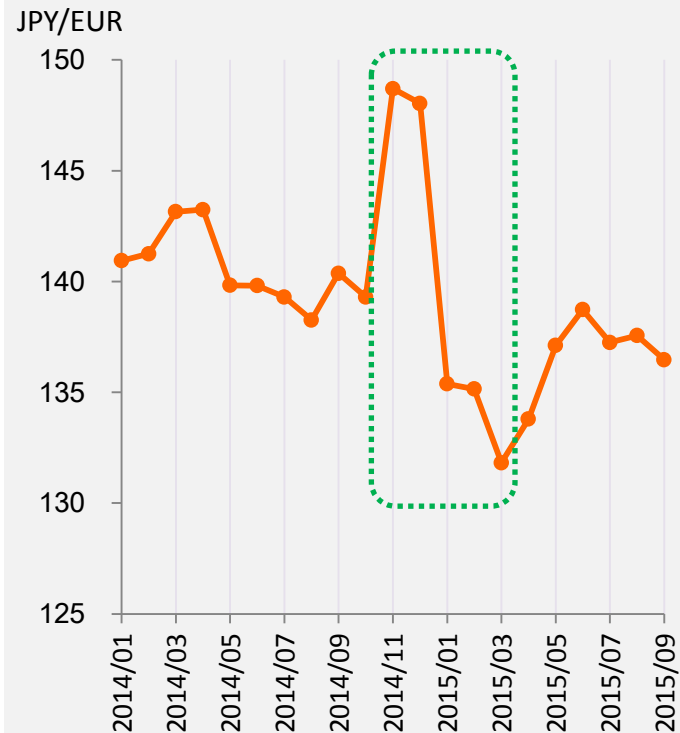
オートバイ用鉛蓄電池



■ 中国 ■ タイ ■ インドネシア ■ ベトナム ■ 台湾 ■ その他

為替影響

主にユーロ安の影響により、営業外費用で為替差損(7億円)が発生

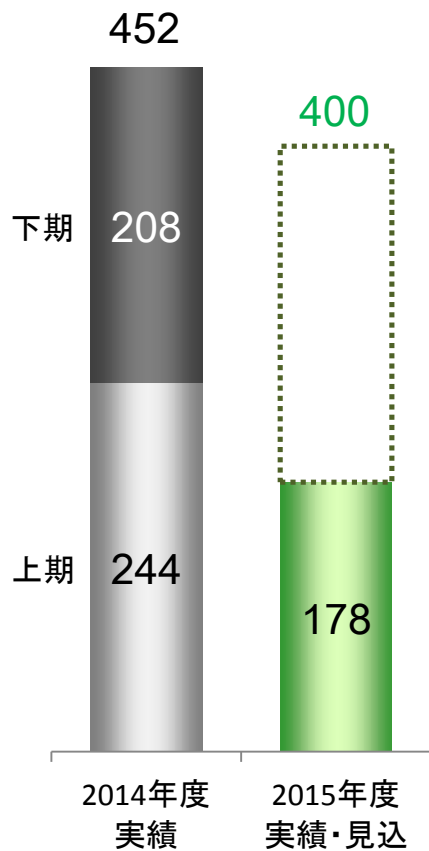


3. セグメント別業績

リチウムイオン電池

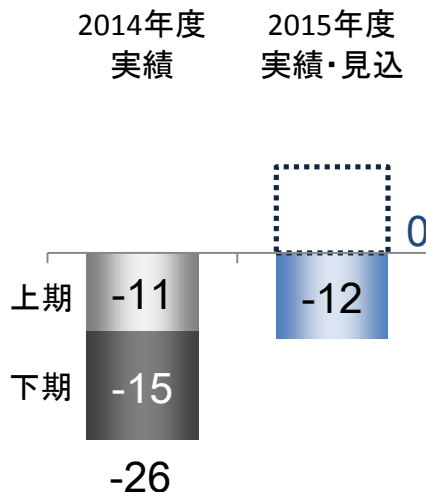
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2015年度上期商況

- [ブルーエナジー]
国内自動車販売の低迷により、ハイブリッド車向けリチウムイオン電池の販売は減少
- [リチウムエナジージャパン]
プラグインハイブリッド車向けリチウムイオン電池の販売は好調

増減益要因

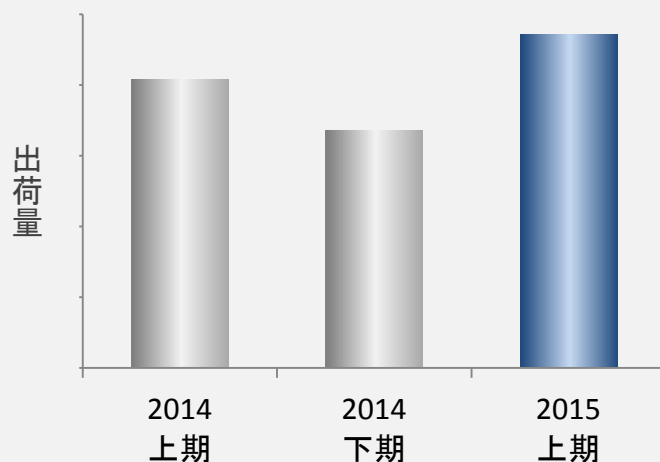
販売減少を合理化推進によりカバーし、前年同期水準の利益を確保

3. セグメント別業績

リチウムイオン電池

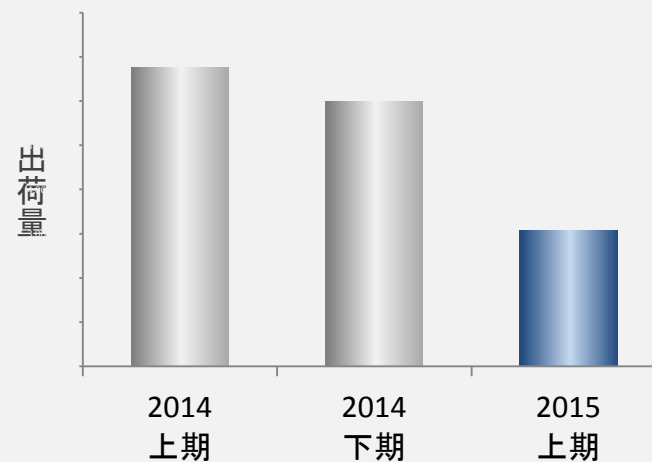
➤ 通期セグメント黒字化達成に向け順調に推移

リチウムエネルギー ジャパン



- 国内メーカーおよび海外メーカー向け PHEV用が好調
- EV用も比較的堅調に推移
- 数量増加による固定費の薄まりと、合理化推進により赤字縮小

ブルーエネルギー



- HEV用物量減少により減収減益となるも、合理化推進により黒字確保

3. セグメント別業績

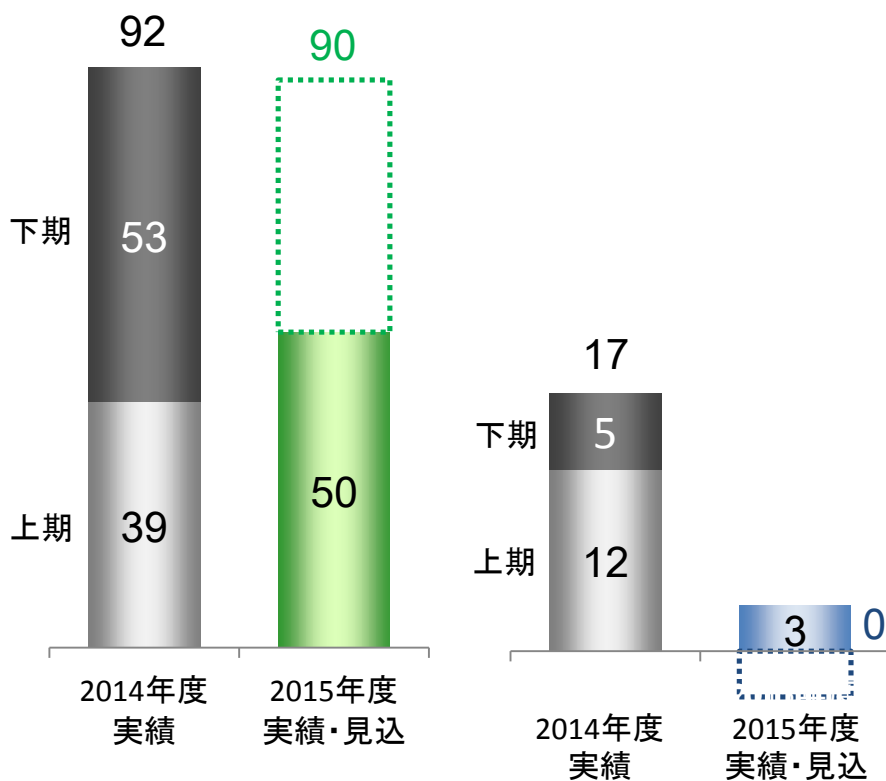
その他

売上高

(億円)

営業利益

(億円)



増減益要因

特殊電池の販売が堅調

次世代に向けた研究開発費が増加

4. 連結業績予想の修正

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 当初計画	2015年度 修正計画	増減 (修正-当初)
売上高	3,698	4,000	3,750	-250
営業利益	209	240	210	-30
(営業利益率)	5.7%	6.0%	5.6%	-0.4P
経常利益	224	250	210	-40
親会社に帰属する 当期純利益	100	130	110	-20
(当期純利益率)	2.7%	3.3%	2.9%	-0.4P
1株当たり 当期純利益	24.33円	31.49円	26.65円	-4.84円
配当	10円/株	10円/株	10円/株	±0円/株
前提条件	国内鉛建値	28.12万円/t	29万円/t	-2万円/t
	LME	2,096US\$/t	2,000US\$/t	-300US\$/t
	為替	106.46円/US\$	115円/US\$	+5円/US\$

4. 連結業績予想の修正

セグメント別業績

(億円)

	2014年度 実績		2015年度 当初計画		2015年度 修正計画		2015年度 2Q累計	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
国内自動車電池	517	24 (4.6)	520	30 (5.8)	520	30 (5.8)	233	8 (3.5)
国内産業電池電源	798	87 (10.8)	810	90 (11.1)	770	80 (10.4)	304	7 (2.1)
海外	1,838	108 (5.9)	2,180	120 (5.5)	1,970	100 (5.1)	946	62 (6.6)
リチウムイオン電池	452	-26 (-5.8)	400	0 (0.0)	400	0 (0.0)	178	-12 (-6.5)
その他	92	17 (18.4)	90	0 (0.0)	90	0 (0.0)	50	3 (5.5)
合計	3,698	209 (5.7)	4,000	240 (6.0)	3,750	210 (5.6)	1,711	68 (4.0)

4. 連結業績予想の修正

➤ 当初計画との変化が大きい地域の状況

中国	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車用は補修需要の低迷により物量は減少傾向で、ローカルメーカーとの競争が激化。新車は日系メーカーへの高付加価値商品の販売は好調。 ● オートバイ用は高付加価値商品（VRLAタイプ）への切り替えが進んでいるが物量は減少。尚、価格競争も激化。 ● 産業用は電力・通信などインフラ関連需要が好調。 ● 天津市の主力鉛蓄電池工場における爆発事故の影響は軽微。
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車用は新車メーカーが前年割れの通期販売台数を予想、家計債務の増加や干ばつ被害による民間消費低迷もあり補修の価格競争が激化。 ● オートバイ用販売台数は補修が減少しているものの新車がカバー。 ● フォークリフト用はタイ国内市場は鈍化傾向。
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車用は通貨安による物価上昇や金利高止まり、国内の石油価格上昇によりインドネシア国内需要は低迷しているものの輸出がカバー。 ● オートバイ用は新車、補修ともに低調。

5. 貸借対照表

(億円)

	2015/3末	2015/9末	増減額		2015/3末	2015/9末	増減額
流動資産	1,773	1,707	-66	負債	1,773	1,671	-102
・現金及び預金			-17	・支払手形及び買掛金			-43
・受取手形及び売掛金			-92				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 年度末の売上増加にともなう 売上債権の回収が順調に進んだ </div>						
・有価証券			-12	・借入金及びCP			-8
・たな卸資産			+67	・未払金			-28
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 需要期に向けた在庫積み増し </div>			・未払法人税			-6
固定資産	1,822	1,807	-15	純資産	1,822	1,843	+21
・有形固定資産			-23	・利益剰余金			+9
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 減価償却費が設備投資額を上回った </div>			・非支配株主持分			+14
・退職給付に係る資産			+16				
資産	3,595	3,514	-81	負債・純資産	3,595	3,514	-81

	2015/3末	2015/9末
自己資本比率	44.9%	46.1%
ROE(自己資本利益率)	6.7%	-

6. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2014年度 2Q累計	2015年度 2Q累計	2014年度 通期実績	2015年度 通期計画
設備投資額	46	55	110	170
リチウムイオン電池事業	8	11	19	34
海外事業	19	17	40	55
国内既存事業、その他	19	27	51	81
減価償却費	75	77	157	170
内、リチウムイオン電池	30	26	60	62
研究開発費	30	36	67	70
(売上高研究開発費率)	(1.7%)	(2.1%)	(1.8%)	(1.9%)

7. キャッシュ・フロー計算書

第2四半期実績

(億円)

営業C/F		投資C/F		財務C/F	
	54		-61		-23
・税金等調整前利益	65	・有形固定資産取得	-59	・借入金の減少	-8
・減価償却費	80			・配当金の支払	-34
・売上債権の減少	98			・連結子会社増資に伴う 非支配株主からの収入	25
・たな卸資産の増加	-66				
・仕入債務の減少	-52				
・その他	-28				
・法人税等の支払	-26				
現金および現金同等物の残高					
		期首	257	第2四半期末	227
フリーC/F ※1		-7			

ポイント

- 営業C/Fは前年同期55億円と同水準の54億円を確保した。
- 有形固定資産の取得によりフリーC/Fはマイナス7億円となったが手許資金で賄った。その結果、キャッシュの第2四半期末残高は227億円となった。

※1: 営業活動によるC/Fと投資活動によるC/Fの合計

8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

➤ 本件の概要

■ 買収対象

- ・ パナソニック ストレージバッテリー株式会社
- ・ パナソニック ストレージバッテリー瀋陽有限会社
- ・ パナソニック・ミンダ ストレージバッテリー インド株式会社
- ・ パナソニック エナジー タイ株式会社の鉛蓄電池事業
(乾電池事業を除く)

■ 買収予定価格 (概算)

約300億円

■ 今後のスケジュール

クロージング予定日：2016年度 第1四半期内

8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

▶ 個社情報

日本

社名	パナソニック ストレージバッテリー株式会社 Panasonic Storage Battery Co., Ltd.
所在地	静岡県 湖西市
設立	2004年10月 * 旧松下電池工業株式会社（現パナソニック(株) AIS社）より分離・独立
主要製品	自動車用および電動車両用鉛蓄電池

中華人民共和国

社名	パナソニック ストレージバッテリー瀋陽有限会社 Panasonic Storage Battery (Shenyang) Co., Ltd.
所在地	遼寧省 瀋陽市
設立	1994年10月
主要製品	産業用小型制御弁式鉛蓄電池

タイ王国

社名	パナソニック エナジー タイ株式会社 Panasonic Energy (Thailand) Co., Ltd.
所在地	サムットプラカーン県
設立	1996年12月
主要製品	乾電池（アルカリ/マンガン）、自動車用鉛蓄電池、電池応用商品

インド共和国

社名	パナソニック・ミンダ ストレージバッテリー インド株式会社 Panasonic Minda Storage Batteries India Pvt.,Ltd.
所在地	ニューデリー
設立	2014年12月
主要製品	自動車用および産業用鉛蓄電池

8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

➤ 本件の目的

- 「既存事業の収益拡大を図り、新規事業を育成する」成長シナリオの実行
- 技術開発力・生産技術力・品質管理力の融合による事業構造の変革
- 鉛蓄電池事業におけるグローバルシェアの拡大



- 電池専門メーカーとしての知見と実績
- グローバルな基盤を活かした技術対応力と販売力
- 先を見据えた技術研究・開発力
- 鉛蓄電池製品のフルラインアップ



- 技術開発力、生産技術力、品質管理力
- ブランド力



ブルーバッテリー
Caos



アイドリングストップ車+標準車対応
caos PRO



軽・コンパクトカー用
circla



ハイブリッド車用
caos

8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

▶ 期待するシナジー効果

- 両社の技術力の相乗効果により、技術・品質・コストで評価される事業体制の構築
- 生産技術のグローバル水平展開による生産の合理化推進
- 当社既存工場 + 浜名湖工場による最適生産体制の構築
- 製品開発要求の多様化に対応する開発スピードの向上

8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

➤GSユアサグループ海外拠点

本件実施による拠点増加を含め、海外17ヶ国40拠点到グローバル展開










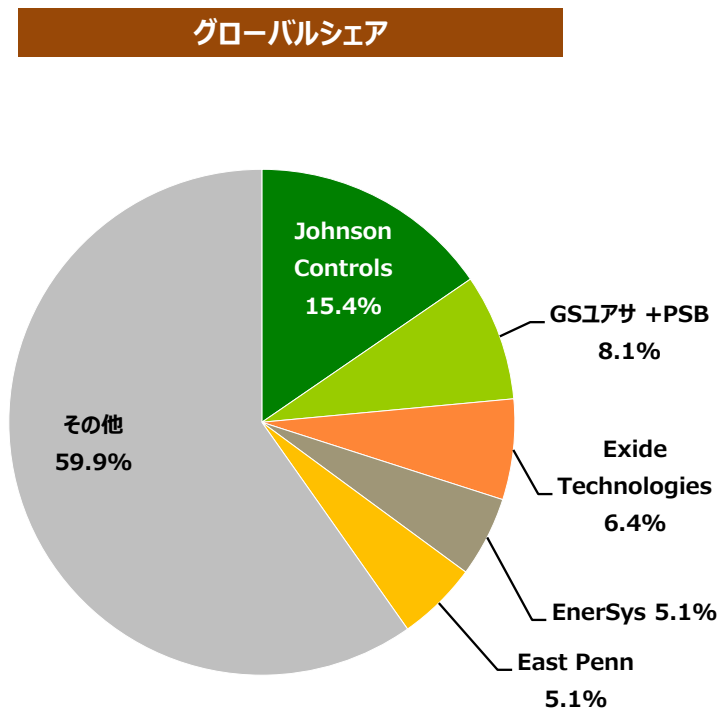
8. パナソニック(株)の鉛蓄電池事業を買収

▶ 鉛蓄電池市場グローバルシェア

※自動車用、オートバイ用、産業用(電動車両用を含む)鉛蓄電池全体の市場

売上金額ベース

メーカー	2014年 シェア
 Johnson Controls	15.4%
 GSYUASA + Panasonic	8.1%
 GSYUASA	6.9%
 Exide Technologies	6.4%
 EnerSys	5.1%
 East Penn	5.1%
:	:
 Panasonic	1.2%
パナソニック ストレージバッテリー (PSB)	
その他	59.9%
合計	100.0%



Source:当社推定値

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

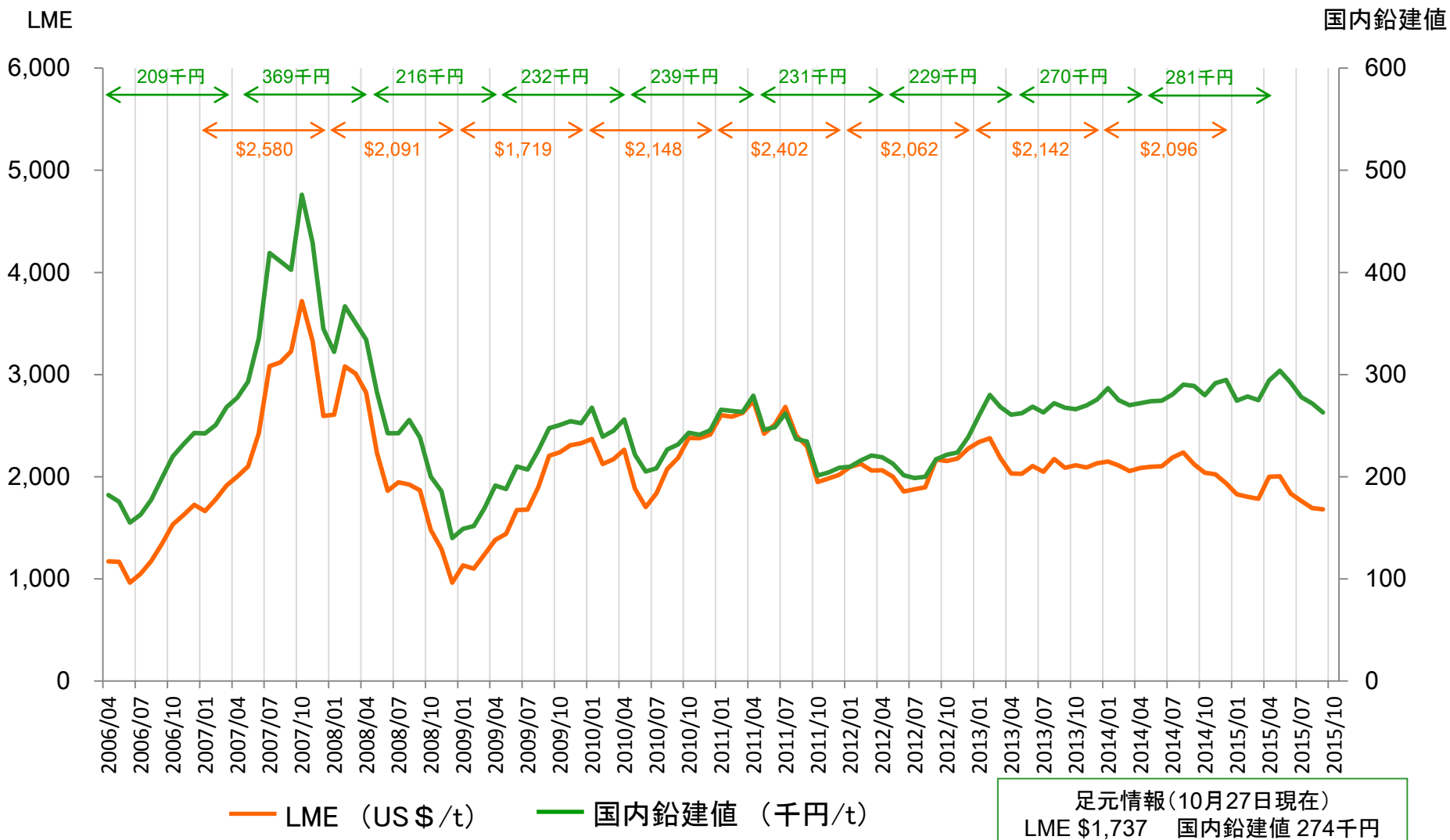
株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

コーポレート室(広報) 中野 宏治 ・ 大道 由加 ・ 柿島 辰年

Tel : 075-312-1214

<http://www.gs-yuasa.com/jp>

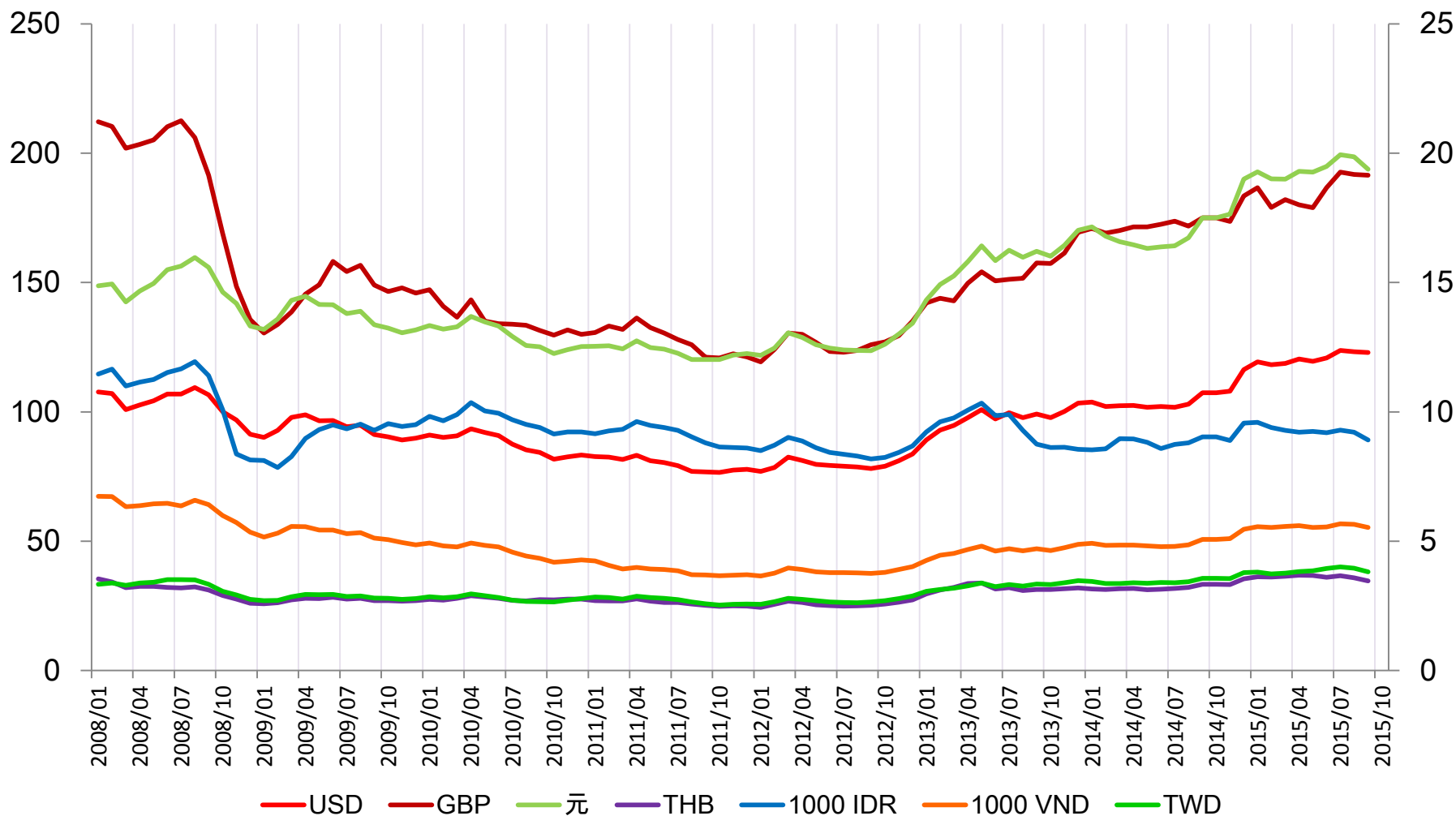
原材料価格の推移



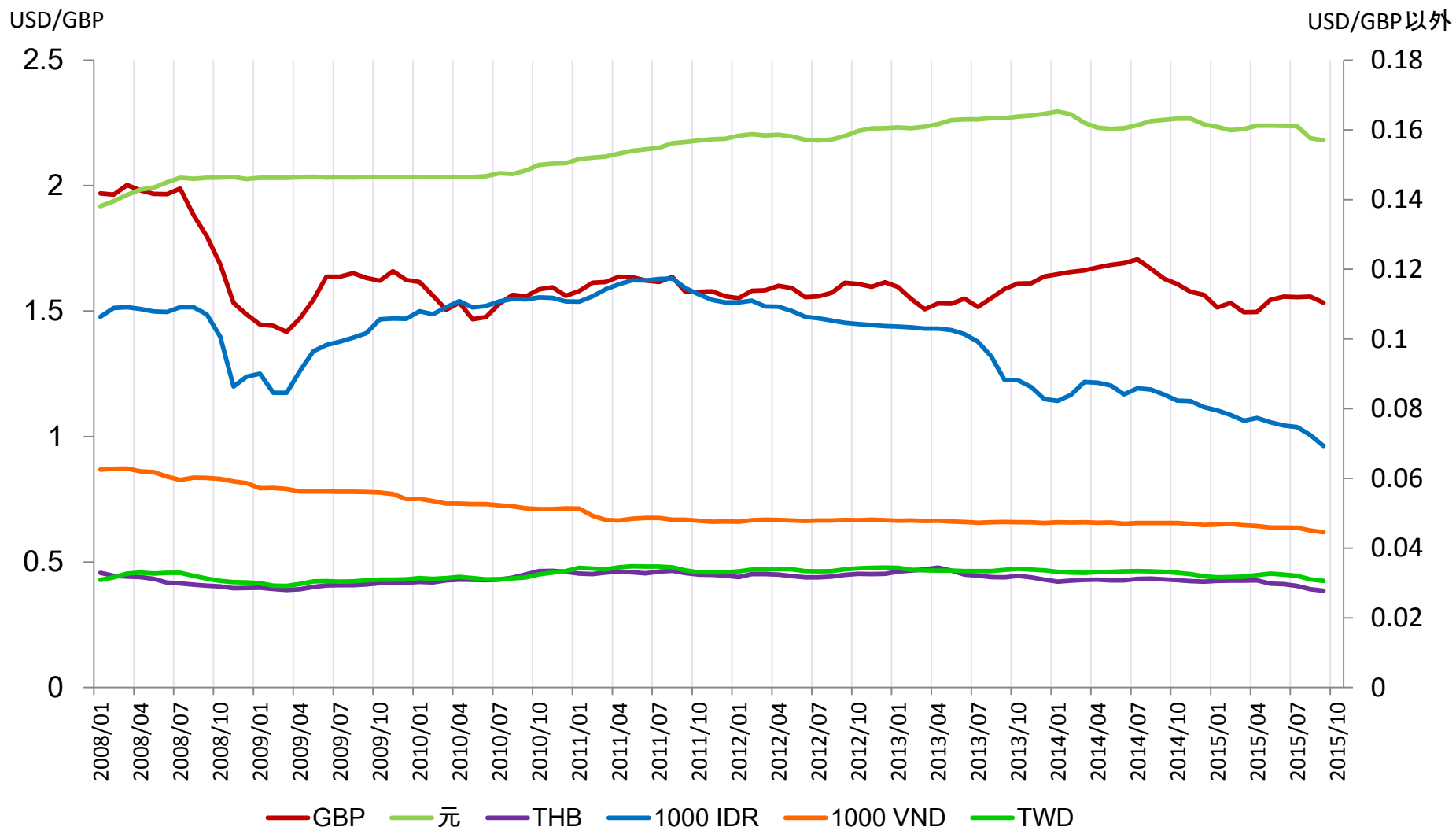
為替の変動（日本円 対 主要通貨）

円／USD、GBP

円／USD、GBP以外



為替の変動 (USD 対 主要通貨)



有利子負債、D/Eレシオ推移

